

2011 年度 自己評価結果公表シート

平安女学院大学附属幼稚園

1、本園の教育目標

キリスト教の愛の精神を教育の基本に据え、「自分のことばかりでなく他人のことも考えることのできる子ども」を目標にしています。

- ① 自然とたくさん触れ合うなかで、子どもが自分の力で考え、心を動かし、探求し、判断し、想像力や創造力をもっていきいきと活動する。
- ② いろいろな人と一緒に過ごすなかで、自分と友だちや他の人々との違いを認めるとともに、信頼を持ってともに生活する。
- ③ 絵本とたくさん触れ合うことで、豊かな感性をはぐくむ。

2、本年度、重点的に取り組む目標・計画

- ・行事のねらいを明確にし、目的や方法を再検討する
- ・昨年度に引き続き、子どもが自発的に活動したり遊べる環境の整備を行なう

3、評価項目の達成及び取組状況

評価項目	取組状況
危機管理・安全管理を充実させる 特に全教職員で自然災害への対応を把握し、行動ができるようにする	園独自の防災マニュアルの作成をするための話し合いを、行なっている。
園内の環境整備を行う。特に自然観察林での遊び方の研究を行う	子どもたちの遊んでいる様子を写真に撮り、行動を記録することで、観察林での遊びの発展につなげるように研究に取り組んでいる。
子どもの遊びが広がり刺激を与えるような教材を、様々な事例を通して検討する	子どもの遊びの事例を報告しあう中で、様々なアイデアを出し合い、実践にうつすなど積極的な取り組みがなされた。
預かり保育を開始し、子育て支援の充実を図る	利用状況の把握と保護者の要求の把握に努めている

4、学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

- ・行事について記録など具体的なふり返りの方法を考えて行ったが、検討する機会が不十分であった。
- ・環境の研究に取り組むなど、大学職員と努力をしてきたが、継続が必要である。

5、今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
防災マニュアルの作成	話し合いをより具体的にし、園の状況により即したマニュアルを作成する。
大学（子ども学部子ども学科・短期大学部保育科）とのより深い連携を図る	大学教員の研究活動に、積極的に協力する。幼稚園教諭の研究として、保育学会等で発表する準備を進めてきたので、この研究を継続して行う。 学生と園児との交流をより活発にすることにより、多様な経験をできるように計画する。

6、学校関係者の評価

【保育について】

- ・多くの自然が溢れているので、四季折々季節を感じられてよい。
- ・幼稚園の自然観察林にツリーハウスと山小屋があるところが魅力。
- ・園に毎日保護者が直接迎えに来るので、子どもの様子が分かりやすく、何かあった時でも、その場で保育者と話せるところがよい。

【教員の資質について】

- ・困っていることや、悩みを先生に相談しやすい。
- ・先生方の連携がよくとれていると感じる。
- ・少人数の園なので、保育者全員が全園児の名前を覚えていて、幼稚園全体で子どもを把握してくれているところが安心できる。
- ・ここ何年か、先生の入替わりが多く、残念に思う。

【行事について】

- ・誕生日会の先生の出し物はとても楽しみだが、誕生日会が3か月ごとだと間隔が少し長いような気がする。（2か月に1度とかになるとよい）
- ・アグネス広場の在り方が中途半端のように感じる。（親が主体なのか、子どもが主体なのか）
- ・夏に夕涼み会のようなものがあると、楽しいのではないか。

【その他】

- ・大学附属の幼稚園と言う特色を、もっと活用してほしい。（学生と関わる機会が増えるといいと感じる。）

7、財務状況

公認会計士による監査の結果、適正であると認められている。